
けいおん！～戦場でも歌うよ！～ Other Story!

鉄氷

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

けいおん！〜戦場でも歌うよ！〜 Other Story!

【Nコード】

N4299Z

【作者名】

鉄氷

【あらすじ】

けいおん！〜戦場でも歌うよ！〜 とは別に話が進みます。

本編のけいおん！〜戦場でも歌うよ！〜 も見て言ってくださいね！

1話 プロローグ

事件は部活が終わりみんな夕焼けの空の下、各自の家に帰るときの事だった

唯「あー疲れたー」

梓「今日もあまり練習できませんでしたね・・・」

律「まあまあ、そういう時もあるさ」

漣「律がお茶ばかり飲んでるからだろ！」

律「そういう漣だつて飲んでたじゃん」

紬「明日は練習したらいいじゃない」

今日も部活の反省会、漣と梓は今の雰囲気気に食わないようだが軽音部には紬の持つてきたお菓子や紅茶で「ティータイム」というのが定着しつつある

漣「明日は絶対練習だからな」

律「わかってるってー」

と律が悪戯な笑顔を浮かべた時だった

太陽を覆い隠すほどの煙が辺りを覆った

唯「何？どうしたの!？」

反射的に顔を腕に埋めると飛んでくる小石が体のいたるところに当たって痛い

律「みんな大丈夫か？」

しばらくして辺りが静かになると律が4人の安否を確認する

漣「いたたた・・・」

紬「私は大丈夫」

梓「私もです」

律「唯も無事だな」

爆音は実に3回に及び砂煙が自分たちのいた所をわからなくするほど漂っている

とにかく今は状況の理解を優先するべきだろう

梓「爆発事故、ですかね」

単純に考えるなら爆発事故、というのが相当だろう

しかし工場ならまだしも家庭のガスや車のガソリンへの引火でここまで大きな爆発は起きない、とこの場にいる全員が思っただろう

澪「とにかくここから離れよう」

紬「そうね、唯ちゃん梓ちゃん歩ける？」

梓「はい、大丈夫です」

唯「大丈夫だよ」

律「とにかく唯の家へ行くぞ」

恐らく一番近いであろう唯の家へ走って向かう

先に帰っている憂の安否も心配だ

2話 奇襲攻撃

唯「憂！」

インターホンも押さず予めから開いているドアをけり倒す勢いで開け靴も脱がずに家へ上がる

憂「お姉ちゃん！さっきの音は何？」

唯「私にもわからないよお・・・」

よほど憂の無事に安心したんだろうか、一気に唯の頬に涙が伝う律「ごめんな憂ちゃん、突然押しかけて」

憂「いえ、私も一人じゃ心配だったんです」

こんな状況でも笑顔を崩さない憂、母親の優しさすら窺える

憂「突然なんで何もありませんがどうぞあがってください」

スリッパを持ってきてくれ私達は平沢家宅にお邪魔する

律「テレビ、つけていいかな？」

憂「どうぞ」

リビングにあるテレビの電源ボタンを押す

いち早くさっきの爆発の原因を知りたかったのだ

ただ情報がテレビ局まで行ってない可能性も十分ありうる

少しの希望にかけ映し出された画面を見つめる

- 原因不明の爆発、ロシア軍の奇襲攻撃か？ -

夕方のニュースのテロップにはそう書かれていた

湊「ロシア軍の攻撃・・・？」

紬「どういうことなの？」

つまり先ほどの爆発はロシア軍の攻撃だったということなのか

この場にいる6人には事態の重さは理解できなかったが世界の情勢

は大きく、「第三次世界大戦」へと急転していくのであった

憂「落ち着いた？」

唯「うん・・・」

30分程、ずっとニュースへ釘づけになっていた

現在テレビに映し出されているのは国防省長官の緊急会見だった

長官「攻撃はロシア軍の潜水艦から発射されたミサイルの可能性があり・・・」

梓「ミサイル・・・」

さっきの爆発の正体はミサイル攻撃、ということなのか

長官「確認されたところ20発中15発は桜ヶ丘基地に着弾し他のミサイルの着弾地点は不明」

簡単な推測では近くの基地を攻撃した際外れた5発は市街を直撃したということだ

漣「そんな・・・」

梓「これって戦争・・・」

その「戦争」という言葉にその場全員の背筋が凍った

何故なら今ロシアでは反政府軍と政府支持軍が戦闘状態にある、とニュースで報道されていたからである

3話 情勢

現在反政府派と現政府指示派が戦闘状態にあり反政府派勢力が圧倒的に優勢だということ

その脅威は中国、北朝鮮、韓国を巻き込み支配下に置いたこと、旧ソ連各国と同盟を結び欧州やアフリカまでに進行していること、中東から莫大な資金を送ってもらい軍事力増大を図っていること、そしてその脅威が日本に向けられたこと

反政府軍にとつて日本はアメリカ軍の重要な拠点であり攻略を企んでいると推測され今日、実行された

国土は世界一を誇るロシア連邦

今、たつた一人の企みによつて国は愚か地球全体を動かすことになる
長官「止む負えん、9条の改正、放棄を総理に伝えてくれ、きつとわかつてくれるはずだ」

長官の狙いどうり9条は国民投票により改正が決定、自衛隊は日本国自衛軍と改称しその旨を各国に伝えた

その決定は連日テレビで取り上げられるようになり反対意見や賛成意見など国内でも賛否が分かれた

無論、その決定は軽音部5人の耳にも届き驚きを隠せなかった

梓「本当に始めっちゃいましたね・・・」

紬「私達どうなるのかしら・・・」

唯「大丈夫だよ、みんな」

前日泣いていた唯も今はみんなを励まそうと笑顔を受けべていた
律「例え避難して離れ離れになつてもきつとまた会えるって」

漣「かつこいいこと言おうとしたらどう？」

律「そんなんじゃないやい！」

1日ぶりに笑いがこの空間にやってきた

4話 徴兵

日本国自衛軍が成立して2か月、自衛軍は敗北に敗北を重ねていた
実際徴兵の義務がある韓国、北朝鮮、更に人口世界一を誇る中国で
は圧倒的な人材の中志願制の自衛軍にも人材の限界が見え始めた

唯「徴兵令？」

律「ああ」

それつきり律は黙りきってしまった

律だけではなくその場にいた全員、俯いてしまった

歴史の授業で習った徴兵令、太平洋戦争時日本が強制的に戦場に人
員を送り込む政策だった

梓「日本でこんなことがあるなんて」

自由が国民から奪われる瞬間を目の当たりにした5人はただ軍の決
めた訓練所へ向かうしかなかった

輸送車の中では見慣れた顔の子もちらほらと居て余計に居心地が悪
かった

和「唯！」

唯「和ちゃん！」

和「唯たちも徴兵されたの？」

唯「うん・・・」

和「全くどういふことかしらね」

輸送車の中では誰も口を開かない、例え知り合いが目の前にいたと
しても

だから唯と和の声がより大きく聞こえる

数時間が過ぎエンジン音も、喋り声も掻き消されることになる

銃声だ

桜ヶ丘基地が破壊されたため数十キロ離れた地点の秋の台基地が軽
音部メンバーの訓練所となる

既に基地では徴収された子供、女性や若い大人たちが真剣な眼差しで小銃の照門を覗いていた

輸送車は正門と思われる大きな門を銃を担いだ兵士を横目に大きな駐車場へ向かい停車した

兵士「1号車の人はこっちへ」

5人は予め徴兵時に紙切れを1人1枚、貰っていた

それには何号車に乗るか、とこの基地の名前が書かれていた
集合すると兵士2人程が施設の案内をする

人員増加に伴って急ぎよ建てられた仮設住居、狭く一度にたくさんは入れないお風呂、2つの部屋を繋げて作られた仮設のコンビニなど生活の上で必要な物は不十分であれ揃ってはいた

仮設住居の近くには60式106mm無反動砲等の物騒な物も配置され安心して眠るには少し抵抗があった

しかし予想以上に快適ではありこのまま敵の砲撃に晒されるくらいなら軍の手で守ってほしい、という甘い考えが少しばかり頭によぎった

5話 訓練

律「疲れたー」

64式7.62mm小銃を抱えた律が汗を拭いながら呟く

漣「律、レバー戻しておけよ」

律「ん？あ、ごめんごめん」

いつもは訓練が終わった後はすぐセレクターレバーを安全のA、単発のタ、連射のレ、3点バースト（三発ずつ発射される）の3のAに戻すのだが今日は忘れていたらしい

漣「しつかりしろよ、訓練が始まってからもう3週間経ってるんだから」

律「へいへい」

昼は勉強、夕方からは実際銃に触れ訓練、夜は軍事用語や銃の扱い方など決して楽しい、とは言えない元とはかけ離れた生活を送っていた

武器庫に銃を戻し出けるとそこには唯と梓の姿があった

どうやら唯もレバーを戻していなかったのだろう、後輩の梓に怒られていた

これから食堂で夕食を取り風呂が開くまで休憩、そして勉強をし11時就寝というハードな生活だ

心を休める日と言えば土曜と日曜は勉強がない分午前で訓練が終わる午後は自由といった厳しい生活の中にも根本的な自由は存在する訓練期間は1か月に縮小されその間みっちり勉強させられ兵士として戦場へ駆り出される

梓「今から食べに行きますか？」

漣「そうだな、律が大変なことになってるし」

律「漣、も、もう歩けない・・・」

漣「自分で歩け！」

梓「じゃあ私ムギ先輩呼んできます」

全員「いただきまーす！」

食堂にはメニューがいくつもあり毎日変わる日替わり定食、人気のカレーなど多彩である

梓「律先輩食べ方が汚いです」

律「仕方ないだろー腹減ってるんだし」

唯「ほらほらあずにゃんもお食べ」

紬「あ、そういえば次の訓練は修了試験の模擬ですって」

漣「もうそんなになるのか」

律「実戦投入、か」

修了ということとはつまり実践配備されるということである

梓「とうとうですか」

やはり誰が人を撃ちたいか、ましてまだ卒業もしていない女子高校生などが

それでも行かないといけないものは行かないといけない、せめて人を撃たずに戦争が終わることを願うばかりであった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4299z/>

けいおん！～戦場でも歌うよ！～ Other Story!

2011年12月15日01時45分発行